

はじめに

『未来をひらく男女共同参画—ジェンダーの視点から—』は、読者の皆さんとともに男女共同参画社会を創っていきたいという希望のもとに作られた。

世界人権宣言を始点として、20世紀半ばから、人権の尊重と両性の平等、さらには個人の能力を十全に発達させる社会を目指す世界規模の動きが展開されてきた。日本も国連の動きと軌を一にして、男女が平等である社会に向けて歩み続けてきた。しかしながら、現在世界の国々の中でも日本という国は、教育や社会参画に関して女性と男性の格差が大きい国の一つなのである。個人の人権としてはもとより、このままでは国として立ち行かなくなることが危惧され、男女共同参画社会への移行が緊要な課題となっているのである。

この国の男女共同参画は、遅々として進まない。文化、歴史、教育、法律等々が多元的、重層的に、その促進を阻んでいるのである。その解決は一筋縄ではない。

この書物は単に実態を並べるのではなく、読者の皆さんに、実態を見、その対策を考えていただくことを期待している。各章の内容は、すでに出版されているテキストと比較して異色といえるかもしれない。各章の執筆担当者が、それぞれの専門分野を披瀝するのではなく、課題に的を絞り執筆したものである。したがって、すべての章に執筆者の熱い思いが反映されているのではないかと自負している。また、コラムを入れて別の角度からの検討を加えた。特にジェンダーと職業に関してはコラムのみで構成し、様々な角度からの考察を試みた。

第1章を読まれた方は、『未来をひらく男女共同参画—ジェンダーの視点から—』というタイトルに疑念をもたれるかもしれない。従来どおりの男女という表現を改めた方が良いと思われるかもしれない。どの章においても、今まで当たり前と思っていたことに対して疑念が生まれることを期待している。

Daniel D. Platt は *Five Perspectives on Teaching in Adult and Higher Education* (Krieger Publishing Company, 1998) において、5つの学習パターン

を示している。その内の Transmission Perspective（伝達型）は、知識の伝達を主とし、教える側である教師中心学習である。学習者の知識量の変化を期待するものである。それに対して、近年展開されている Developmental Perspective（開発型）は、考え方の“質の変化”を期待するものであり、個々の学習者が主体的に学ぶ学習者中心学習である。学習者自らが課題を見つけ対処していくものである。人々がより幸せになる、より良い社会を築くためには、多くの方々の Developmental Perspective による学習が求められる。それなくしては、男女共同参画社会を創ることはできないであろう。この本が、課題を見つけ、対処していく一助となることを願う次第である。

これまで男女共同参画社会創りに貢献してこられた先人に敬意を表すとともに、これからの社会を築く人々に、タイトルにある未来をひらく男女共同参画社会を創生していただくことを期待する。

石本奈都子氏には編集・校正に力を注いでいただいた。ミネルヴァ書房の浅井久仁人氏には、貴重なご助言、ご示唆をいただいた。心より感謝申し上げる。

西岡正子